

北國新聞政経懇話会 1 月例会



外交には戦略が必要で、戦を引き出すため、正常化後に略は「情報」「確信」「大さき経済協力があると説得した。な絵」「力」が基本となる。「力」は米国を利用した。アジア大洋州局長として北朝鮮との交渉を担当した際、一ツ国務副長官(当時)と会談したのだ。北朝鮮が恐れたに調べ、交渉相手だった「ミスターX」の力量も調査した。国交正常化が必要だとの確信もあった。拉致被害者の帰国もあつた。関係を築いたほうがいいと思

北國新聞政経懇話会の1月例会は27日、金沢市のホテル日航金沢で開かれ、元外務審議官で日本総研国際戦略研究所理事長の田中均氏が「世界の構造変化と日本の戦略」と題して講演した。田中氏は北朝鮮への対応に関し、2012年に各国で大統領選やトップ交代が想定されることに触れ「各国とも対外的に妥協しにくく、不安定な情勢になる可能性がある。6カ国協議も必要だが、それまでに南北朝鮮、米朝、日朝の2国間協議で活路を見いださなければいけない」と述べた。講演の要旨は次の通り。

田中均氏(元外務審議官)が講演

対北、2国間協議に活路

世界の中心は東アジアに

北朝鮮の韓国・延坪島への砲撃などは「弱者の恫喝」とみている。挑発に乗る必要は

書記から金正恩氏への政権移行が起こるとみられる。対外的には妥協しにくい事態になる。6カ国協議は継続すべきだが、進展は難しい。従って今年、2国間交渉が重要になる。朝鮮半島に平和をつくるという大きな概念を持ち、南北、米朝、日朝間でやらなければ

口減少時代に入り、日本はこの機会を利用して東アジアの需要を取り込むべきである。とりわけ中国なしでは、日本の繁栄はあり得ないところまで来ている。だが、所得格差など政府への不満が広がっているのに加え、人民解放軍の自己主張も強くなるなど内政面でのリスクは大きい。

外交戦略に疑問

民主政権1年半の外交を見ると、戦略があつたのかと疑わざるを得ない。

ないが、危険であることは間違いない。来年に持ち越してはいけない。

12年は危ない年

特に12年は危ない年だ。米韓口で大統領選があり、中国は胡錦濤国家主席から習近平国家副主席への指導者の交代がある。北朝鮮では金正日総

今、世界は大きく変化している。西側民主主義諸国から新興国へ、富の集積という力関係が変わった。中国、インド、インドネシアなど成長率の高い国は東アジアにあり、世界の中心になっている。人

日中間の信頼関係を向上させるとともに、同じ状況にある米国を含めた日米中の新たな枠組みが必要だ。中国を静かに変えながら、中国への依存を高めることが不可欠となる。

さらに、日本周辺の環境が変わったことで、これからの